
第4回会員総会シンポジウム：国際連携と IUPAB

オーガナイザー：日本生物物理学会 理事会

日時：9月20日（水）12:45～13:40（会員総会中）

会場：A会場（全学教育棟 E107）

司会：神取秀樹

概要：国際純粋および応用生物物理学連合（International Union for Pure and Applied Biophysics; IUPAB）は1961年に創設され、日本は当初よりアクティブなメンバー（正式加盟団体は日本学術会議 IUPAB 分科会）として加盟しています。現在、約60の国と地域が参加し、研究者間の交流と生物物理学の振興に寄与しています。

IUPABの重要なイベントが3年に一度、開催される International Biophysics Congress (IBC) です。日本は1978年に第6回大会を京都で開催、国内1200人、海外から600人の参加者が集い、その後の日本の生物物理学発展に多大な影響を及ぼしました。2014年、オーストラリアのブリスベンで開催されたIBCには、本学会は若手の旅費支援を行いました。2017年7月16～20日には第19回大会が英国のエジンバラで開催され、本学会は10名の若手に旅費支援を行いました。

今年の会員総会シンポジウムは国際連携をテーマとします。長年、IUPABの発展にご尽力され、会長も務められた永山氏、現在、IUPAB理事ならびに日本学術会議 IUPAB 分科会委員長を務めておられる野地氏にご講演いただいた後、エジンバラ会議の旅費支援を受けた若手にショートプレゼンテーションをしていただく予定です。

講演者・プログラム

1. 永山國昭（永山顕微鏡研究所, IUPAB 元会長）

「本学会の国際連携に関する取組み」

2. 野地博行（東大院工, IUPAB 理事, 日本学術会議 IUPAB 分科会委員長）

「近年の IUPAB の活動について」

3. 第19回 IBC に旅費支援を受けた若手のショートプレゼンテーション

4. 総合討論

【速報】

本年7月のエジンバラ IBC 会議において、2023年の日本開催が決まりました。

シンポジウムでは今回の招致活動についてもご紹介いただきます。